



令和2年度 宿利原小学校だより

宿っ子

7月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



自己肯定感の育成～大切な存在としての自分～

校長 有留 盛昭

新型コロナウイルス感染予防のための臨時休業期間を補うために、今年度は1学期の終業式が7月31日(金)になり、例年よりも短くなった夏休みが間近に迫ってきました。

1学期を振り返るアンケートを児童や保護者の皆さんに回答してもらいました。親子で評価の異なることはよくある話ですが、親子共に低い評価になったのが次の質問です。

「自分には、自分なりのよいところがあると思いますか」児童平均3.6ポイント

「お子さんは、自分のよいところを分かっていると思いますか」保護者平均3.2ポイント

今年度も宿利原小学校の学校経営方針の柱の一つである自己肯定感の育成が喫緊の課題になっているということがはっきりと数字として表れたと言えます。何とかしたいという思いから、数年前に購入した本がヒントにならないかと読み返してみました。アメリカで子育てコンサルタントとして多くの講演を行ったドロシー・ロー・ノルト博士の著書『子どもが育つ魔法の言葉』です。その中に「子は親の鏡」という詩がありました。

『子は親の鏡』

けなされて育つと、子供は人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもは不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもはみじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる

親が他人を羨(うらや)んでばかりいると、子どもも人を羨(うらや)むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる

分かち合う事を教えれば、子どもは思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもはやさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもはこの世の中はいいところだと思えるようになる



詩の中には「家庭で育つと・・・」とありますが、学校も同じこと。要は、長く接している大人の在り方ですね。それぞれの家庭に方針があるとは思いますが、子どもたちの自己肯定感を周囲の大人が共に育てるために一緒に続けてみませんか。子どもたちがもっと「自信を持つように」そして、もっと「自分が好きになるように」、意識しながら励ましてみましょう。認めてみましょう。子どもたちの全てが、まわりとは違うかけがえのない存在であることを、伝えていきましょう。